

2025年度 事業計画書

I. 事業方針

昨年度は、韓国視察ミッション（10/15～18）・JIMTOF2024において日本歯車工業会ブースでのPR活動（11/5～10）・「台湾歯車協会」視察団受入れ（11/11～12）の大きな事業をわずか1ヶ月の間に無事に実施することができた。これは「専務理事体制」を確立し事務局の運営体制を強化したからこそ可能だったと振り返ることができるが、本年度はより平準化した無理のない行事運営を心掛けながら会員の皆さんのために事務局の充実に取組んでいきたい。

更なるメンバーファーストを実現するため、本年度は賀詞交歓会・総会にプラスして、7月の名古屋・9月の大阪で理事会を開催する際に中部地区・西日本地区の会員に広く呼びかけ会員の声を真摯に聞く機会を増やしていくとともに、新たに入会していただいた会員のフォローアップも従来以上に心掛けていく。

一昨年度は台湾視察・昨年度は韓国視察を実施し、両国が日本のマーケットを深く研究している状況を強く実感した。国際競争力強化を常に意識しながら、本年度はホームページの情報発信を見直す等、海外も視野に入れた情報発信にしっかりと取組んでいく。また、本年度の海外視察は2019年以来の欧州歯車業界視察を11月に実施し、日本歯車工業会ならではの企画内容で会員の期待に応えたい。

満員御礼が続く日本歯車工業会の看板事業「ギヤカレッジ」では修了生の声を反映し更なる充実を図るとともに、修了時に日本歯車工業会として“正式な称号”を授与することでギヤカレッジ修了生が誇りと自覚を持って日々の仕事に邁進することを期待したい。そして、ギヤカレッジ修了生が集いオープンな技術ディスカッションを行う「ギヤカレッジ・フォローアップ研修会」を更に活性化させ日本歯車産業の技術的な底上げに繋げていく。

3つの研修会「経営研修会」「技術研修会」「若手経営者研究会」を会員のニーズに合った内容で継続的に開催するとともに、研修会に集う方たちが情報交換をしっかりと行う場を設け更に内容を充実させていきたい。

ISO国際規格との関わりについては、Pメンバーとして参加し引き続き重責を担うために諸課題に対応していくとともに、日本歯車工業会としての取組を会員に周知し理解を深めていきたい。

2028年に創立90周年を迎える（一社）日本歯車工業会の歴史の重さを感じながら、産学官の連携を深め更なるプレゼンスの向上を念頭に会員の皆さまの声に真摯に耳を傾けメンバーファーストで活動を推進する。

Ⅱ. 実施事業

1. 研修会

歯車製造分野における高齢化に伴う後継者への技能伝承のために、次世代の経営者および技術者を対象として歯車に関する基礎教育を重点に支援を行う。また、会員同士の交流を深め、新たなビジネスチャンスを生み出すように事業を推進する。

1.1 経営研修会

優良企業の見学会、並びに人材開発、教育、経営管理等の実例に基づいた改善活動事例の研修会を年3回開催予定。経営力・技術力の強化を目的とし、研修会を通して経営・技術上の有益な情報・知識を習得し、事業発展に生かす。

1.2 技術研修会

大学教授、業界の第一線技術者より講師を選定し、目的に沿った演題を設定した歯車技術研究会（日本機械学会：歯車基礎技術講座）を日本機械学会と連携で年3回協賛開催する。

また、産学連携を推進することを目的に、講演や訪問を通じて大学などの研究機関との間で相互理解を深めるとともに活発な交流に繋げる。年2回実施予定。

1.3 若手経営者研究会

次世代経営者（および候補者）による相互研鑽とネットワーク構築を目的とした歯車業界の技術者、経営者育成事業を推進する。年2回開催予定。

2. 人材育成・教育

企業の長期安定的な発展の基礎となる中核人材育成事業を実施する。産業技術の競争力向上、そのための技術力強化は歯車工業会の基本的なミッションの1つであり、次世代を担う技術者養成のための人材育成事業はその根幹にある。

2.1 ギヤカレッジ企画運営委員会

歯車技術全般を学べるギヤカレッジの企画運営を行う。

- (1) JGMA ギヤカレッジ マスターコース（基礎講座） 定員 30名

歯車の基礎（材料・熱処理等含む）・設計・製造に関する講義（必修）、体験により理解を深める現場実習（選択）から構成される。

- (2) JGMA ギヤカレッジ プロフェッショナルコース（応用講座） 定員 20名

応用に重点をおいた歯車の設計・製造・性能評価に関する講義（必修）とトラブルシューティング（破損歯車の原因究明とその対策）の講義・演習（選択）と現場体験実習（選択）から構成される。

2.2 ギヤカレッジフォローアップ企画運営委員会

JGMAギヤカレッジ修了生の更なるステップアップの場として、ギヤカレッジフォローアップ研修会を実施する。

修了生による自主運営を原則として、歯車技術者のネットワークづくりと技術力向上、現場の困りごと解決について考えることに重点を置き、ディスカッションを中心とした研修とする。

3. 規格・標準化事業

グローバル化が進む歯車業界における競争力強化に向けて、ISO規格の制定、改訂への積極的な関与がますます重要になる。日本歯車工業会は、永年に渡りISO/TC60（歯車専門委員会）において全ての事案への投票義務を負い、規格作りに積極的に参画してきたが、関係全WGへの出席は難しい面もあり、取捨選択を行い、必須WG（精度・用語、ベベル・ウォームギア、強度等）に出席する。

具体的には、JKA補助事業「国際競争力強化に資する標準化の推進」の実施。将来のISO国際会議出席者の育成を計るため、複数の委員を国際会議に派遣する。また委員会には、賛助会員である海外歯車加工機販売メーカーよりアドバイザーとして参加してもらい情報交流をしていくことにより各委員の歯車の世界的な技術動向に対する視野を広めていく。

4. 海外調査・対応事業

会員企業のグローバル対応を視野に、海外の展示会（EMOやIMTS等）への参加や企業訪問を主な目的とした海外視察や欧州、米国およびアジア各国の歯車業界（および機関）との交流を推進する。

2025年度の視察先は下記を検討中

日 時：2025年11月第4週の1週間

場 所：ドイツ・スイス圏

内 容：歯車関連企業視察

5. その他

5.1 生産性向上設備投資促進

産業競争力強化法（平成25年法律第98号）の規定に基づく先端設備に該当する旨の証明書を発行する団体として、引き続き、証明書発行サービス等の事業を行う。

5.2 広報委員会

5.2.1 歯車関連製品に関する生産、流通等の調査

会員企業並びに歯車産業界における、歯車関連製品の生産動向並びに需要先別調査を継続して行い、業界動向を把握し、データ解析のうえ企業経営の一助として情報を提供する。

5.2.2 広報・PR事業

工業会の活動状況等の情報を会員企業や学術教育研究機関、マスコミ、シンクタンク等にホームページや機関誌等で提供することにより、関連企業及び分野に広く情報を発信していく。また、日刊工業新聞には年3回、他の新聞紙への広告記事を複数掲載すると共に、会員企業へも同時参加・掲載の呼びかけをする。

更に学会や他団体主催見本市等に協賛・参加し、率先して国内外に当団体の存在をアピールする。

5.2.3 機関誌の発行並びにホームページの充実

機関誌「JGMA News」（年2回）を継続発行し、歯車産業に関する各種最新情報及び話題、関連業界の動向、経済産業省の各種施策、工業会活動報告等を広く情報を提供していく。今年度より「JGMA News」をはじめ、ホームページ内の英文化をより進めて海外にアピールする。

また、会員情報や書籍販売、各種統計等の最新情報をホームページに随時更新する。

5.3 総務委員会

5.3.1 各種団体保険の加入促進

当会にて従来から制度化している「団体PL保険」並びに「団体生命保険」について、さらに多くの会員企業に有効的に活用していただくため、加入促進活動を行う。

両制度の継続と規模メリットを享受していただくため、今後も活動を強化していく。

5.3.2 他工業団体との交流・連携

当会は日本機械工業連合会、機械振興協会、日本工作機械関連協議会の団体会員とし、定期会合や委員会等に参加するとともに最新業界情報等の共有を行い、交流を深める。

以上